



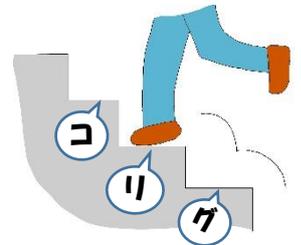
～読み書きに備えた遊び～

読み書きができるようになるために身につけておきたい力として、音韻意識ということが挙げられます。これは音と文字が結びついていることがわかるようになることです。例えば、“みかん”という単語を聞いて、み・か・んという3つの音（文字）が対応することが分かることです。

見えにくさのあるなしにかかわらず、子どもが言葉をしゃべり始めた段階では、その言葉に文字が対応していることを知りません。幼児期に入って文字に触れる経験を通して、自然と音声には文字が対応していて、自分の発する声は文字で表現できることが分かるようになってきます。この時期に見えにくさや聞こえにくさがあると、この音と文字の対応を学ぶことに困難が生じますが、遊びの中でも、音と文字の対応を学ぶことができます。

★ グリコ、チョコレート、パイナップル

最近の子どもはこの遊びを知っているのでしょうか？また、この遊びの正式名称は何というのでしょうか？一応簡単に説明すると、じゃんけんをして、グーで勝ったら「グ・リ・コ」と3歩進む。チョキで勝ったら「チ・ヨ・コ・レ・エ・ト」と6歩進みます。といった具合に、1音ごとに歩を進めることで音一文字の対応を学ぶ機会となります。この遊びの特長として、“ヨ”（拗音）や“ッ”（促音）と言われる特殊音節を、実際は“チョ”と1音で発音せずに“チ・ヨ”と2音に分解したり、発音しない“ッ”を“パ・イ・ナ・ツ・プ・ル”とあえて意識的に発音したりして、より遠くに歩を進めようとしています。また、階段を使って行われると、1音の1歩が一段ずつでより分かりやすく、音韻分解をしやすくなるのも特長です。



小学校低学年では、作文するときに“行きたかった”と書くところを、“行きたかた”と書いてしまったり、“きゅうしょく（給食）”と書くところを“きょしょく”と書いてしまったりすることがあります。こうしたミスは学習途上ではよくあることですが、この遊びは特殊音節を学ぶことに貢献します。

★ 給食のメニューを使って文字への意識を高める遊び

幼稚部の朝の会では、給食のメニューを確認する時間があります。メニューを読み上げた後に、みんなで“ハ・ン・バ・ア・グ”などと1音ずつ手を叩きながら発音しています。これによって、身近な活動を利用して、読み書きの準備も進めています。

ある日のことです。デザートの確認をするときに、先生が次のような投げかけをしました。「今日のゼリーの味は、みかん・もも・洋ナシのどれでしょう？ヒントを出しますね。」と言って、パン、パンと手を2拍叩きました。日頃の積み重ねの成果で、子どもたちはニコッと笑顔を見せて、今日のデザートの味を元気よく口にしてくれました。「あ、答えが分かった！」という、自信にあふれて生き生きとした子どもたちの笑顔は、本当にかわいらしく素敵でした。

